

(別紙4)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271800389
法人名	社会福祉法人 桜江福祉会
事業所名	陽光苑グループホーム
所在地	島根県江津市桜江町長谷2723番地2
自己評価作成日	平成22年2月1日
評価結果市町村受理日	平成22年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaijojyohou/index.html">http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaijojyohou/index.html</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年3月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達職員一同は、利用者様本人が、自分なりの生活リズムの中で、それぞれ「役割」や「居場所」を見出していけるよう、自然な姿勢での生活支援を行っています。また、山間地の特色を生かし、四季の移り変わりを五感で感じていただいたり、昔ながらの風習を大切に、春にはまきずし作り、夏には盆だんご作り、秋にはぼたもち作り、冬には干し大根作りとしめ縄作りを行っています。そして、一年中を通じて畑仕事に関わり、収穫への期待と喜びを味わいながら穏やかに暮らしていけるよう取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定員5名のホームは開設当初からの職員もおり、利用者も数年単位で継続して生活しているなど、地域密着型サービスとしての馴染みの人と場所が継続されるよう努めている。「日々の中で利用者が快の気持ちが出て、言葉に出していただけるよう」「利用者の希望・思いは本人が忘れてしまわないうちに叶えてあげたいという気持ち」などの理念から伺える職員の暖かい関わりと利用者の自立と自己選択への支援が、穏やかな日常の雰囲気を作っている。利用者は、来客をまるで、自分の家のように、迎え入れ、会話している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎミーティング時に理念を唱和して、理念に基づいた介護に日々留意しながら共有実践している。	地域に密着したグループホームとしての独自の理念が掲げられており、職員全員が理解し、毎日の実践の中で意識づけられている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り等に参加したり、公民館行事に積極的に参加し、交流を深めている。また、地域のボランティア（清掃・演芸等）、小中学校の福祉体験を受け入れて交流をしている。	利用者は、希望すれば、出身地の行事に職員と一緒に出掛けたり、婦人会からのホームへの訪問も随時あるなど、地域とのふれあいの機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所健康長寿課主催で「認知症を支える」というテーマで各地域へ出向いて実践を通じての講演を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、グループホームの現状や取組みの報告を行っている。またテーマを決め、参加者からの意見・助言を受けてのサービスの質の向上に活かしている。	定期的に行われる運営推進会議では、利用者の状況の変化に合わせて、ケアのあり方や、地域の人々が気軽にホームを訪れる方策など身近な議題も取り上げられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、相談や情報交換を行い、緊密な連携を深めている。また、2ヶ月に1度の運営推進会議にはかかさず出席頂いており、当ホームの取り組み状況等は会議の中で伝え、意見・提案も頂いている。	行政と職員は、顔の見える関係を築いており、日常的に利用者についての話し合いやホームのあり方などについての検討がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修として、身体拘束をしないためのケアについて、全職員が正しい理解に努め実践している。また施設長が朝礼時、身体拘束をしないためのケアについて話をし、さらに理解を深めている。	夜間不穏状態の利用者についても職員が歩きや会話につきあうことで、落ち着くまで寄り添うなど、身体拘束ではないケアのあり方を日常的に実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者を大切に尊厳をもって介護に当たるよう、苑内研修として、高齢者虐待防止法について全職員が正しい理解に努め自覚を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修として、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持っている。現在のところ、それらを活用できる機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約等に際しては十分な時間をとり、利用者や家族に分かりやすく説明をし、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口及び担当者を重要事項に明記し、説明を行っている。苦情・意見箱も設置したり、家族の面会の折には、相談・意見・要望がないかお聞きし、それらに応えるように努めている。	家族や関係者がホームを訪れた際や、遠距離に家族が居る場合は、月に1回以上は、電話をするなどして利用者の思いや家族の意見をうかがい、運営に反映されている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いい意見や提案と思われることについては、殆どの提案を受け入れている。ただし、疑問に思う件については、全職員ミーティングに図り、職員の意見を聞いてから取り入れるかどうか判断している。	職員は、非常勤やパート勤務においても、職員会議やミーティングにおいて、意見を出しており、それが活発に運営に活かされている。控えめな職員からは、個別に時間を設けて意見を言える機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況は把握している。勤務日においても希望休みを出来る限り取り入れ、職員の負担を出来るだけ少なくなるように整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て、職員の能力・経験年数・スキルに応じて積極的に参加している。研修後は、研修報告書を作成し、情報・知識を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市が開催するグループホーム部会に出席し、交流する機会を作っている。また、その中で情報交換や意見交換をできるだけ多く持ち、それらを持ち帰りサービスの質の向上に活かしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時にご本人の所に訪問し、状況について本人・家族から話を伺っている。入居以降は本人から話を伺い、ケアプランに反映して本人にあったケアをして行くようにしている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項に述べたように、家族の状況も同様に伺い、入所後も面会時その他の折に相談・意見・要望を伺うようにして、ケアプランに反映するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー及び計画作成担当者が前項の聞き取りに沿った支援の方針を決定して、その方針に基づいて各職員が支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩として敬意を払い、畑仕事を一緒にしたりしながら、収穫時など共に喜び合ったりしている。また、昔ながらの生活の技・文化（切干大根、延べ団子、おはぎなど）に関わる場面作りを設け、作り方や味付けを聞いたりして、一緒に楽しみ支え合える生活を送っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活の様子を2ヶ月に1回発行するグループホーム便りで報告している。また、面会時、生活の中での喜びのある事柄などお伝えし、一緒に喜び合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に電話をかけ話がでる機会を設けたり、年賀状を出したりして関係が途切れないように支援している。また、入居前から行きつけであった理容院へ入所後も行けるよう支援に努めている。	ホームは峠の頂にあり、利用者の地元から離れていることが多いため、地元に行く機会を設け、馴染みの人と場との関係を継続できるよう努めている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相互関係や一人ひとりの性格について、職員間で情報を共有し、日常の家事や余暇活動を通じ利用者同士の交流、支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移られた利用者様や家族へ、いつでも今まで生活を共にした利用者様に会いに来ていただける様、手紙を送ったりしている。また、併設した事業所へ移った利用者様とは話をしたりする時間を作るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との日々の会話の中で思いを聴き取るように努めている。日頃と違う行動・表情をされる時は不安やストレスを感じていないかを観察し、表情が難しい方には、家族からの情報を元に本人の思いをくみ取ったり、問いかけを行っている。	日常の仕草や表情、会話の中からさりげなく利用者の思いや意向を確認する機会を捉え、よりよいケアに活かされている。調査当日もお料理をしている人やテレビを見ている人、会話をする利用者同士など、それぞれに自由で落ち着いた雰囲気過ごしている様子がみられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴や生活環境、大切にしている事などの情報はケアプランに反映してある。また、これまでのサービス利用の経過等各職員が把握共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活のリズムや過ごし方を理解し、訴え等に耳を傾けるよう努めている。また、できることに注目し、利用者様の1日の暮らしの中に取り込めるよう支援している。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族から、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画検討会において総合的な支援が行えるケアプラン作成に努めている。	ホームでの生活がなじんでくるにともなって、職員全員で随時モニタリングするとともに、状況が変われば、それに合わせて、適切に計画の変更が行われている。ホームに入居後落ち着きが見られ、要介護度が改善した利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ、毎日、時間毎の利用者様の様子や言動、行動、食事摂取量、排泄、身体状況を具体的に記録することで、職員間の情報共有している。また、ケアプランが実践に繋がるように、ケアプラン実施記録へ記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診や入院時に必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や公民館活動に参加して、会話を楽しんだり、触れ合いを多く持つよう努めている。また、地域や町の文化発表には、グループホームの作品を出展している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医に週2回往診して頂き、利用者様の健康管理を行っている。医師と24時間体制で緊急時には、いつでも対応ができ、適切な医療が受けられるよう支援している。	山間部にある施設のため、地元でのかかりつけ医に継続して受診することは困難なため、紹介状を渡した上で、嘱託医が往診しているが、利用者、家族とも、週に2回の往診や緊急時の適切な医療対応などにも、納得している。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の薬の管理は、同施設の看護師が行っている。日常の健康管理や状態変化の場合には、看護師からかかりつけ医へ上申し、指示を仰ぎスムーズに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院によるダメージを極力防ぐ為、病院関係者に情報提供を行っている。入院中の経過や治療については、家族や病院側と情報交換しながら早期退院に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、入居中において、事業所が対応し得る最大のケアについて家族へ説明している。状況変化に応じた話し合いが必要な場合には話し合いを行っている。	本人、家族とは法人全体として対応できることを説明した上で、重度化や終末期のケアのあり方については、入所時から話し合っている。併設の特養との交流も日常的に行い、場合によっては特養への入所なども検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て、年に1度心肺蘇生法、AED操作の講習を受講し、対応できるようにしている。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、火災を想定しての避難訓練を行っている。また、消火器、消火栓の使い方の訓練を行い、職員一人ひとりが身につけている。	法人全体での非難訓練だけでなく、職員1人ひとりの意識づけや、訓練を行っている。地域の協力体制についても、運営推進会議などで、協力を呼びかけている。	ホームは、個室が多く、職員は夜間帯は少なくなるため、緊急時の迅速な非難が可能となるよう、引き続き同法人の施設からの、バックアップ体制や地域の協力が期待される。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライバシーの確保を常に留意しながら、日々の支援を行っている。また、利用者様への言葉掛けは、人生の先輩として敬意をはらう対応をしている。	排泄や移動、食事などで、援助が必要なときも、職員側の都合ではなく、まずは、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様から希望や意志が表せるように関係作りや言葉かけを行っている。また、希望されない事は無理強いする事のないようにしている。言葉では十分に意思表示出来ない場合でも、表情や反応を注意深くキャッチしながら自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、また一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、個別的な関わりを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿い、馴染みの理容院に行けるよう支援している。その日の服装は、ご本人に選んでいただき、その日や季節に合わない時は、さりげなく、これが今日は似合ってますよと、声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの持っている力を見極め、それを活かしながら、食事作り、盛りつけ、配膳等を職員と共に行えるよう支援している。職員も同じ食卓で食べて、味つけを聞いたりしながら楽しく食事ができるような雰囲気作りをしている。	職員と利用者は同じテーブルで、和やかな雰囲気の中で食事が出来るよう努めている。準備や片付けも、利用者とともに行われている。ひなまつりにちなんだ献立で話題作りができ、楽しげな会話の様子がみられた。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、毎食個々の記録を取り把握している。摂取カロリーや栄養バランスは栄養士の作成する献立で管理している。水分量が一日を通じて確保できるように、フロアにお茶を準備している。また、職員からも、声掛けをし、お茶を勧め飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔内の必要性を理解し、毎食後歯磨きを実施し、利用者様の状態や力に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ・パット・尿失禁パンツ類も本人に合わせ検討し、支援を行っている。利用者様によっては、夜間声掛けが必要な方には行い、トイレ誘導をしている。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切にし、職員も同じトイレを使用しながら、汚れた場合はさりげなく掃除している。パット交換なども、羞恥心に配慮して、自室で行うこともある。促しの声かけも他の利用者にとそれと悟られないよう、さりげなく行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの排便状態は、常に把握し、記録しており、必要に応じては、担当医師や看護師から指示を仰ぎ対応している。また、食材の工夫や十分な水分補給を提供したり、散歩や体操などを日常生活に取り入れ予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の一人ひとりの入浴に対応する希望(湯加減)やタイミング、入浴の回数などに応じた支援をしている。時間帯については、職員配置上、柔軟な対応が実施できていない。	入浴は、大切なコミュニケーションの時間と捉え、利用者の思い出話などをゆっくりとかがう機会とするなど個別に対応している。時間帯についても、職員配置の問題はあるが、なるべく、利用者の意向を取り入れるようにしている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、消灯時間などは決めず、一人ひとりのペースに合わせて就寝している。なるべく日中に活動していただく工夫をしている。また、室温調整・布団などの掛け物にも配慮し、安心して休息したり、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能・副作用の説明を利用者様毎に記録ファイルに閉じ、全職員が内容を把握できるようにしている。誤薬・飲み忘れがないよう、個別に対応した服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来る事など、負担にならないよう配慮し、利用者様一人ひとりが活躍できる場面を作っている。やっていただいた時は、感謝の言葉を伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ドライブ等できるだけ外出する機会を多く作るようにしている。また、定期的な外出計画を立て、普段は行けないような場所へ出かけている。	ホームの周辺への散歩は、日常的に行われている。買い物や、催し物へのドライブなども、利用者との話し合いの中から、行き先をきめるなど、戸外へ出掛けることを積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、家族了解のもとで行っており、個々の金銭出納帳を定期的に確認をしていただいている。外出した際の買い物のときには、見守り、支援をしながらレジで支払をする機会を作っている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられる事を職員からも勧めている。贈り物が届いた時等、職員から声を掛け、電話しやすい雰囲気作りをしている。また、家族や知人への年賀状や手紙の支援を個々に応じて行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、寒い時にはこたつを出し、あたってもらい、自宅での生活環境に近い環境で過ごしていただけるよう工夫している。また、玄関先には腰かけを設け、外の景色をながめたり、外気浴ができるようにしている。	外の光や風景が間近に感じられたり、食事の匂いがただよったり、訪問客を受け入れやすい開放的な玄関からホールへのつながり、また、季節の花や節句にちなんだ置物やタペストリーなどもあしらわれており利用者の五感にほどよい刺激になるような配慮がみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間には、ソファやこたつを置き、利用者様それぞれが、思いのままテレビを見たり話をしたりして、くつろいで過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた寝具や家具、大切にしていた飾り物、写真などを入居時に持ってきていただいている。配置など、ご本人と相談しながら居心地の良い部屋となるよう配慮している。	利用者とともにしつらえられた居室は、寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれており、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって、「何が分りにくいのか」「どうしたら自分の力でやっていただけるのか」を職員で話し合っている。トイレの場所が分かるよう「便所」と表示したり、廊下・トイレに手すりを設置したり、浴室には、介助バー・シャワーチェアを使用し、安全な環境作りをしている。		